

令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 技術・家庭科

改善の重点

- ① 教科の目標の実現を目指し、育成する「資質・能力」を踏まえ、3学年間を見通した題材の指導計画（評価計画を含む）を作成すること。
- ② 題材のまとまりの中で、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、見方・考え方を働かせ、新大分スタンダードを踏まえた問題解決的な学習を一層充実させること。また、学習指導案に「C努力を要する状況」の生徒に対する具体的な手立てを記載すること。

1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第8節技術・家庭の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること」とある。

技術・家庭科において、育成を目指す資質・能力を育むためには、3学年間を見通し、各題材を通して育むべき資質・能力を具体化して指導計画等に明記することが重要である。また、3学年間を見通した指導計画を立てるに当たり、生徒及び学校、地域の実態等を十分考慮し、創意工夫を生かしつつ、全体として調和のとれた具体的な指導計画（評価計画を含む）を作成することが重要である。

そして、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すとともに、生徒が学ぶことに価値を感じ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成が求められている。そのため、授業において「学習の見通しをもたせ、意欲を高める『めあて』」を設定し、その「めあて」を踏まえ、「学習の成果を実感させ、次の学習につなげる『振り返り』」の活動を充実させることが重要となる。また、題材のまとまりを見通しながら、具体的な評価規準に基づく生徒の学習状況の確実な見取りの方法を工夫するとともに、「C努力を要する状況」の生徒に対する具体的な手立てを講じ、問題解決的な学習に取り組むことが必要である。

このようなことを踏まえて研究を進め、生徒の発達段階や技術・家庭科の特質を踏まえた教育活動に取り組むこととする。

2 研究を進めるに当たって

(1) 研究を進めるに当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 「改善の重点①」については、題材において「3学年間を見通し、どのような資質・能力を育むのか」を具体化し、指導計画等に明記すること。また、題材のまとまりの中で評価の場面や方法についても具体的に明記すること。
- ② 「改善の重点②」については、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定すること。その際、「学習の見通しをもたせ、意欲を高める『めあて』」を設定し、その「めあて」を踏まえ、「学習の成果を実感させ、次の学習につなげる『振り返り』」の活動を充実させること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
(国立教育政策研究所 HP <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryoku.html>)
- ② 早わかり！単元計画作成手順～資質・能力の確実な育成のために～
(大分県教育委員会 HP <https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/hayawakari-tejyunn.html>)